

○埼玉県レッドデータブック動物編2018（第4版） 正誤表

埼玉県環境部みどり自然課が発行いたしました、埼玉県レッドデータブック2018（第4版）については、以下のとおり誤りがありましたので、お詫びのうえ訂正いたします。

番号	ページ	該当項目 (項目名、種名または行数)	正	誤
1	-	学名部分の命名者がイタリックになっている、参考文献の記述者がスモールキャピタルになっていない等文字の標記の誤りが複数箇所ございました。 (個々の修正箇所については、ウェブサイトで公表中の修正版で御確認ください。)	例) <i>Myotis frater</i> Allen 例) 2012年に新種として分類された(OKAMOTO & HIDAKA, 2012)。	例) <i>Myotis frater</i> Allen 例) 2012年に新種として分類された(OKAMOTO & HIDAKA, 2012)。
2	3	ページタイトル 2行目	県の 条例 で保護されている動物	県の 条令 で保護されている動物
3	3	ムサシトミヨ写真上部	下記3種類の動物は、埼玉県の 条例 で採集禁止になっています	下記3種類の動物は、埼玉県の 条令 で採集禁止になっています
4	23	4 調査概要 本文 7行目	(2014) 年度 ～平成27	(2014) 五確 ～平成27
5	36	1 レッドリストの概要 本文 下から3行目	(埼玉県希少野生動植物の種の保存に関する 条例)	(埼玉県希少野生動植物の種の保存に関する 条令)
6	39	38 タカ科 オオタカ 【指定状況】	(削除)	国希
7	41	26 タカ科 オオタカ 【指定状況】	(削除)	国希
8	41	41 ホオジロ科 ミヤマホオジロ 【地帯別評価の低地帯】	NT1, NT1, NT1	NT2, NT3, NT4
9	78	コアジサシ 【県内での生息状況】	営巣地に 草木 が伸びてくると	営巣地に 草本 が伸びてくると
10	84	サンショウクイ 【主な生息環境】	姿勢で とまる 。	姿勢で 留まる 。
11	84	サンコウチョウ 【県内での生息状況】	主に 丘陵帯 から低山帯で繁殖している。	主に 丘陵地帯 から低山帯で繁殖している。
12	86	チュウサギ 【特記事項】	越谷 市 中島のコロニーの	越谷中島のコロニーの
13	88	コミミズク 【特記事項】	杭の上などによく とまる 。	杭の上などによく 留まる 。
14	89	ハヤブサ 【特記事項】	低地では鉄塔などの高い所にと まっている ところが見られる。	低地では鉄塔などの高い所に 留まっている ところが見られる。
15	96	センダイムシクイ 【県内での生息環境】	県内には、低山帯から山地帯の 森林 に夏鳥として渡来し、	県内には、低山帯から山地帯の 山地 に夏鳥として渡来し、
16	107	シロマダラ 【県内での生息状況】	餌資源や 棲みか の減少となり、	餌資源や 生息地 の減少となり、
17	108	ヒバカリ 【県内での生息状況】	生息適地の分断化や消失がみられ、 個体数の減少傾向は続く と考えられる。しかし台地・丘陵帯ではシマヘビほど顕著な減少傾向を示していない。	生息適地の分断化や消失がみられるが、 個体数の減少はシマヘビほど顕著でない と考えられる。
18	118	(5) 魚類・円口類 本文 13行目	絶滅危惧種とされている(環境省, 2015)。	準絶滅危惧種 とされている(環境省, 2015)。
19	120	ミヤコタナゴ 【特記事項】	文化庁、故中村守純氏、地元市教委と協議した結果、在来個体群を維持するには早急に人工授精を行うことであった(金澤, 1986)。	人工授精により在来個体群を維持した(金澤, 1986)。
20	121	ムサシトミヨ 【主な生息環境】	地下水の水温12～18℃で維持され、24時間地下水が一定の水位で通水していること。太陽光があたり、水生植物のミクリなどが繁茂し、巣作りできる環境が必要である。(金澤, 2011a)。	湧水があり、常時一定の水位で通水し、水温が12～18℃に維持されている環境で生息する。また、日照が良く、水生植物(ミクリなど)が繁茂し、巣作りができる環境が必要である(金澤, 2011a)。
21	123	ヤマメ 【特記事項】	在来個体群の遺伝資源の確保が 急務 である。	在来個体群の遺伝資源の確保が 課題 である。
22	124	ミナミメダカ 【特記事項】	在来個体群を分離し、保護できる体制を検討すべきである(金澤, 2014a)。	在来個体群への遺伝的攪乱といった影響が危惧される(金澤, 2014a)。
23	161	ウラギンヒョウモン 【主な生息環境】	タチツボスミレ、マスミレなどスミレ類の生える低地～山地の草地、草原に生息する。	マスミレなどの 無茎スミレ類 の生える低地～山地の草地、草原に生息する。
24	165	(6) 昆虫類 ③チョウ目ガ類 本文 1行目～2行目	日本に生息するガ類は小型のガ類を中心に現在その解明が進み6,300種を超えている。しかし、全体を網羅した最新の印刷物は日本産蛾類標準図鑑であり、全4巻を集計して5,888種が掲載されている。	チョウ目(ガ類)昆虫は日本には約5,900種が生息し、埼玉県からはこれまでに55科2,449種が記録されている。
25	166	フチグロトゲエダシャク 【県内での生息状況】	本県では、旧浦和市(現さいたま市)秋ヶ瀬で1960年3月2日に1オスが採集された(戸田市立郷土博物館で標本が保管されている)。その後、しばらくの間は正確な記録がなかったが、	本県では、旧浦和市(現さいたま市)田島ヶ原で1960年3月2日にオス1頭が採集されたのが最初の記録(矢野, 1959)。その後、しばらくの間は正確な記録がなかったが、
26	170	トビイロリンガ 【国内分布】	本州(関東地方以南)、四国、九州、 対馬、屋久島	本州(関東地方以南)、四国、九州
27	170	カギモンハナオイアツバ 【国内分布】	本州、四国、九州、 屋久島	本州、四国、九州
28	223	シマゲンゴロウ 【県内での生息状況】	旧大宮市(現さいたま市)の地蔵堀、	旧大宮市(現さいたま市)の地蔵堀、

29	255	ヒメクロシデムシ 【特記事項】	久喜市（江村，1989）と狭山市（狭山市，1989）は別の種の誤りと思われる。	久喜市（江村，1989）と狭山市（狭山市，1989）は別種と思われる。
30	269	ミゾナシミズムシ 【県内での生息状況】	同所的に見られるコミズムシ類（ <i>Sigara</i> 属）に比べると個体数は非常に少ない。	同所的に見られるコミズムシ類に比べると個体数は非常に少ない。
31	280	(6)昆虫類 ⑩ナナフシ目 本文 下から4行目	今後の生息状況の蓄積がより重要なものとなる。	今後の生息状況の把握がより重要なものとなる。
32	287	コガタコオロギ 【主な生息環境】	そのため穴の掘りやすいシルト質の均質な土質	そのため穴の掘りやすいシルト（泥）質の均質な土質
33	294	ナキイナゴ 【主な生息環境】	一度個体群が消滅すると近隣の生息地からの再侵入による回復は期待できない。	一度個体群が消滅すると回復は難しい。
34	301	ヤマトヒメカワゲラ 【特記事項】	最近水質の改善がみられることから、再発見が期待される。	最近水質の改善がみられる再発見が期待される。
35	310	コバネアオイトトンボ 【特記事項】	全国的にみても生息地が限定される要因として、宮崎・松木(1992)は、本種のメスは産卵管があまり発達しておらず、組織が比較的柔らかな抽水植物を選択して産卵する習性にあるのではないかと指摘している。	全国的にみても生息地が限定される要因として、本種のメスは産卵管があまり発達しておらず、組織が比較的柔らかな抽水植物を選択して産卵する習性にあるのではないかと指摘している（宮崎・松木，1992）。
36	311	オオセスジイトトンボ 【県内での生息状況】	最近まで良好な発生状況を維持していたが、2014年以降に発生数が激減した。この現象は、池内に繁茂するハスを花期終了後も放置し続けたことで水中に残った大量の枯死部が水質悪化を招いていることと、池周辺の草地の年複数回の除草により、本種の未熟時の生活空間が失われていることの2つが主要な原因であろうと、これまでの10年間の継続調査から推察される。	最近まで良好な発生状況を維持していたが、2014年以降発生数が激減した。
37	311	オオセスジイトトンボ 【特記事項】	隣接する都県では、群馬県と東京都に記録があるが、それらの地ではすでに絶滅した可能性が高いとされている（群馬県，2012；東京都，2013）。上述の杉戸町の生息地は、環境省により『生物多様性の観点から重要度の高い湿地』として2016年に選定された。選定理由は「局限分布する希少なトンボ類2種の生息地」（環境省，2016）。	杉戸町の生息地は、環境省により『生物多様性の観点から重要度の高い湿地』として2016年に選定された。選定理由は「局限分布する希少なトンボ類2種の生息地」（環境省，2016）。池内のハスの繁茂、周辺草地の年複数回の除草に伴い、本種未熟時の適正環境が減少していると考えられる。隣接する都県では、群馬県と東京都に記録があるが、すでに絶滅した可能性が高いとされている（群馬県，2012；東京都，2013）。
38	314	オオモノサシトンボ 【県内での生息状況】	県内には現在でも数ヶ所の生息地があるが、その中でも特に安定した生息地と考えられている杉戸町の生息地では2014年から発生数が激減した。この現象は、池内に繁茂するハスを花期終了後も放置し続けたことで水中に残った大量の枯死部が水質悪化を招いていることと、池周辺の草地の年複数回の除草により、本種の未熟時の生活空間が失われていることの2つが主要な原因であろうと、これまでの10年間の継続調査から推察される。	県内には現在でも数ヶ所の生息地があるが、その中でも特に安定した生息地と考えられている杉戸町の生息地では2014年から発生数が激減した。
39	314	オオモノサシトンボ 【特記事項】	選定理由は「局限分布する希少なトンボ類2種の生息地」（環境省，2016）。	選定理由は「局限分布する希少なトンボ類2種の生息地」（環境省，2016）。池内のハスの繁茂、周辺草地の年複数回の除草に伴い、本種未熟時の適正環境が減少していると考えられる。
40	338	キヌキリグモ 【学名】	<i>Herbiphantes cericeus</i> (S. Saito)	<i>Herbiphantes cerceus</i> (S. Saito)
41	338	アシナガカニグモ 【学名】	<i>Heriaeus mellottei</i> Simon	<i>Heriaeus mellottei</i> Simon
42	339	キノボリトタテグモ 【学名】	<i>Canothele fragaria</i> (Dönitz)	<i>Canothele fragaria</i> (Donitz)
43	341	ヤマキレアミグモ 【学名】	<i>Parazygiella dispar</i> (Kulczyński)	<i>Parazygiella dispar</i> (Kulczyński)
44	363	16 哺乳類 ウシ科 カモシカ ランク外とした理由	県北～西部で生息地の拡がりが見られ、個体数も安定していると考えられるが、	県北、西部へ生息地の拡がりが見られ、個体数も安定していると考えられるが、
45	373	爬虫類文献リスト 25～30行目	桑原幸夫（2011）東松山市からヤモリを発見。埼玉動物研通信，(69)：7-8。 -----（2012）東松山でまたヤモリを目撃。埼玉動物研通信，(71)：17。 松本充夫（2008）秩父市内からヤモリの記録。埼玉動物研通信，(59)：12-13。 松本充夫・須永治郎（2005）嵐山町のは虫類・両生類。嵐山町博物誌調査報告，(19)：28-34。 長須房次郎（2012）さいたま市内のニホントカゲ。埼玉動物研通信，(73)：2。 中村修美（1999）大宮市盆栽町のヤモリ。埼玉動物研通信，(30)：14。	桑原幸夫（2012）東松山でまたヤモリを目撃。埼玉動物研通信，(71)：17。 松本充夫（2008）秩父市内からヤモリの記録。埼玉動物研通信，(59)：12-13。 松本充夫・須永治郎（2005）嵐山町のは虫類・両生類。嵐山町博物誌調査報告，(19)：28-34。 長須房次郎（2012）さいたま市内のニホントカゲ。埼玉動物研通信，(73)：2。 中村修美（1999）大宮市盆栽町のヤモリ。埼玉動物研通信，(30)：14。 南部敏明（2011）東松山市からヤモリを発見。埼玉動物研通信，(69)：7-8。
46	381	チョウ目チョウ類文献リスト 下から3行目	小松 貴	小松 實
47	394	カメムシ目文献リスト 下から28行目	林 正美・宮本正一（2005）半翅目 Hemiptera。日本産水生昆虫，291-378。	林 正美・宮本正一（2005）半翅目 Hemiptera。日本産水生昆虫，291-378。ostria